



本当に考えていることは

堀田耕介

本当に考えていることは

本当に考えていることは

言ってもいいものだろうか

本当に考えていることは

とりとめがなく

ナイフにもフォークにもかからなくて

自分でも夢かと思ったり

幻かとも思ったり

病かとも妄想かとも思うので

人にも夢に見えるだろう

夢を病んでいると見えるだろう

ぼくはすました顔をして

慎み深い顔をして

本当に考えていることを

胸の奥にしまっていた

でもそうじゃない

本当に考えていることは

言ってもいいのかもしれない

空は青いし空気は美味い

一番上質な食べ物空気だ

からだにとってもたましいにとっても

空気はぼくらを生かしてくれる

空気はぼくらに教えてくれる

ぼくらの内と外側と

本当は何の違いもないと

私とぼくと私たち

ぼくらと私らぼくたちと

何人もの私が私の周りを取り巻いていて

私の中にも何人もいて

それぞれの穴から外界を見ている

そんな多重構造の私たちが

空気の入入りする銃眼やのぞき窓を泥で塞いで

本当に考えていることの

美しい音楽が漏れ出ないようにしていた

そうしてその隙間からこぼれ出る
奇妙で苦しげな音楽を
私の音楽だと思っていた
世界は少しだけ耳を傾けて
すぐにどこかへ行ってしまった

ぼくたちは、今
窓の泥を取りはらって
泉の水で窓枠を洗い
きれいな澄んだ空気のうちそと

のびやかな音楽を世界に向かって流して行こう

私の音楽はきれいだ

巧みだと思っていた奇妙な音より

深いと思っていた苦しげな調べより

ぼくの身体とたましいと、そしていのちが奏でて
いる

この音楽は野に山に

そして海へ空へと広がって

溶けて行って

そして世界と一つになる

ぼくはぼくの音楽を奏で続ける
きみはきみの音楽を奏でてくれ
ぼくはあなたの音楽が聴きたい
そしていのちが奏でる多重構造の合奏を

仮定された有機交流電燈と
吹雪の海の人魚の蠟燭
青い南の珊瑚礁の太陽
遊ぶいのちの声を聞く

宇宙の果てで燃えている

あのいのちのふるさと

天に突き刺す太陽の塔と

どこまでも枝を伸ばす生命の樹と

天上と私たちをつないでいるそんないのちのエレ

ベーターに

私が乗るのはいつの日か

私たちの歴史と未来と

生みだされたさまざまな産品

泣いたり笑ったり憎んだり憐れんだり

翻弄されている金の渦

逆巻く嵐のような金のうねり

決壊しあるときは満々とたたえ

人を潤し恵みを与え

人を患わせ死を与える

母なる恐ろしいのちの流れ

私は考える 本当のことを

私は考える 目に見えないことを
私は考える 手で触れないものを

私は書こう 私のいのちを
明滅する星空の星のように
いつか私もきらめいて
そしていつかは消滅する
でも星空はなくならない
そんないのちの星空を
私にそれが見える限り

私はそれを書いて行こう

本当に考えていることは

<http://p.booklog.jp/book/52880>

著者：堀田耕介

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kous37/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/52880>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/52880>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ